

ブラジル国費海外留学プログラム

「国境なき科学」によるブラジル人留学生の受入

—ブラジル国費学生海外派遣プログラムを通じた大学国際化—

Study Abroad Program with Brazilian Government

Scholarship ‘Science without Borders’ :

Globalization through Brazilian Government Scholarship Program

筑波大学グローバルコモンズ（生命環境系） 野村 名可男

NOMURA Nakao

Global Commons Organization, Faculty of Life and Environmental Sciences,

University of Tsukuba

キーワード：国境なき科学、短期留学生、ブラジル

1. はじめに

様々な分野でグローバル化が急速に進むなか、異文化を理解し、十分なコミュニケーション能力で国際的に活躍し、日本の将来の発展を支えることが期待される、いわゆる‘グローバル人材’への官民団体からの需要が高まっている。その要求に応えるべく日本の大学の国際化は急務となっている。グローバル人材育成を現実のものとするため、日本学生支援機構などによる日本人学生の海外留学、外国人留学生の受入を支援する様々な事業が実施されている。このような動きは日本に限らず諸外国でも活発化しており、ブラジルでは理工系人材育成のために「国境なき科学」計画（Ciencia sem Fronteiras）による全世界への学生海外派遣事業が政府主導で実施されており、2013年から理工系分野を有する日本の大学への派遣が開始されている。本報告書では「国境なき科学」計画の筑波大学での概況、それに伴う大学国際化について紹介する。

2. 「国境なき科学」プログラムによる短期留学生受入の概況

ブラジル政府公表によると 2015 年までに 10 万人の学生派遣を目標としており、これまで見込み数

を含め約 440 名¹の学生が日本に留学している。筑波大学では平成 25 年度から受入を開始しており、受入状況を表 1 に示した。

表 1 筑波大学における「国境なき科学」学生受け入れ状況（学群・大学院、年度別学生数）

	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 27 年度	
	秋学期 (2013. 10-2014. 3)	春学期 (2014. 4-2014. 9)	秋学期 (2014. 10-2015. 3)	春学期 (2015. 4-2015. 9)	秋学期* (2015. 10-2016. 3)
学群	10	20	12	5	19
大学院	1	0	0	0	0

*平成 27 年 7 月時点での予定

「国境なき科学」では、学部・大学院レベルの学生交流が計画されており、大学院では学位取得を目的とした大学院課程への入学も含まれているが、筑波大学ではほとんどが学群（他大学における学部に相当）レベルでの短期留学生在が入学している。筑波大学では「国境なき科学」による短期留学生に対して、2 種類の身分を提供している。主に科目履修を目的として入学する学群学生または大学院生を「特別聴講学生」として、学内教員の指導を受け特定分野における研究、実験を目的とした大学院生を「特別研究学生」として受け入れている。特別聴講学生は、母国所属大学の専攻または所属教育組織と類似の筑波大学の学類に所属し、学類教員が留学時の担当教員としてカリキュラム作成や留学生生活一般における個別指導を担当している。また、筑波大学では、短期留学生に対して、日本人学生をチューターとして担当させることでさらにきめ細かい支援体制を整えている。チューター制度は短期留学生の支援だけではなく、留学生支援を通して日本人学生の国際性涵養、コミュニケーション能力向上も目的としている。また、筑波大学では約 4,000 部屋の学生宿舎を学内に完備している。現在、全学生数は約 17,000 名であるが、外国人留学生に対しては優先的に宿舎を提供している。多くの宿舎では日本人と外国人留学生が混在する形態をとっている。学内宿舎利用にかかる費用は、学外の賃貸住宅に比較して安価であるが、一部老朽化している建物があり（現在改築工事实施中）、室内に空調や浴室・トイレが完備されていない部屋もあることから、学外の賃貸住宅を選択する外国人留学生も少なくない。「国境なき科学」で入学するブラジル人留学生はこれまで全員が入学時に学内宿舎に入居し、ほとんどが帰国まで学内宿舎に滞在している。学外の賃貸住宅へ転居するブラジル人留学生も一部見られたが、その場合は複数名で部屋をシェアできる賃貸物件を各自で見つけ転居している。大学として賃貸住宅契約の際の保証などについて支援を提供している。

¹ 「国境なき科学」計画（ブラジル政府派遣留学生）http://www.jasso.go.jp/study_j/csf.html

図1に学群受入学生の筑波大学における所属教育組織を示した。日本への留学に際してブラジル人留学生の多くは先端技術、とくに IT などの工学分野での学修を期待する学生が多く、本学でも情報科学、工学システムといった工学系の学類への所属学生が50%を占めている。また、バイオテクノロジー、生物多様性、地球科学分野における学修を希望するブラジル人留学生も多く見られる。

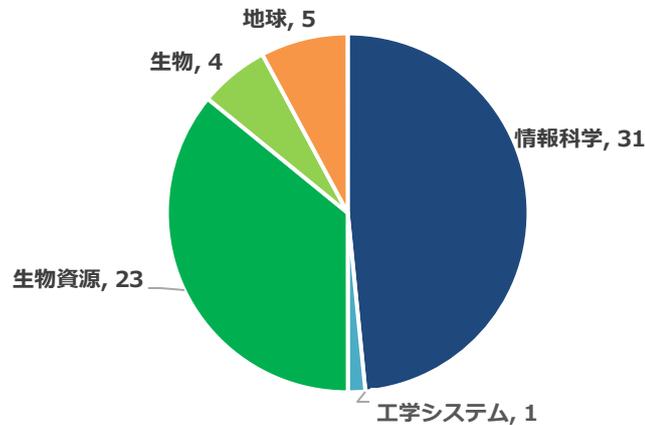


図1. 筑波大学における「国境なき科学」ブラジル人留学生受入状況
(H27年8月時点での学類別学生数)

筑波大学では特別聴講学生に対して JTP (Junior year at Tsukuba Program) 科目が提供されている。JTP 科目は短期留学生に対して提供される英語による科目群で、ほとんどの学類から科目が開講されており、総科目数は約 350 科目である。(http://www.global.tsukuba.ac.jp/sites/default/files/JTP%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%952015-2016.pdf) また、グローバル 30 プログラムに伴い開設された英語による学士課程が 3 プログラム実施されており、開講科目の多くが「国境なき科学」で入学したブラジル人留学生に提供されている (http://www.global.tsukuba.ac.jp/)。3 プログラムは、それぞれ、社会国際、生命環境、医療科学分野で、特に生命環境分野の英語プログラム (生命環境学際プログラム (http://www.global.tsukuba.ac.jp/departments/life-and-environmental-science)) の開講科目は短期留学生に対して多くの科目が開講されており、生物資源、生物、地球学類に入学するブラジル人留学生が多い一因となっている。また、日本語・日本事情科目の履修を希望するブラジル人留学生に対して受講生の日本語レベルに適した 9 段階の日本語クラスが開講されている。また、履修前にプレースメントテストを受験することが義務付けられており、各学生がレベルに適したクラスを履修できるようになっている。

このように筑波大学では科目履修を目的とする短期留学生に対して比較適豊富な提供科目を有しているが、さらにこれら科目の英語シラバスを完備し WEB 上で公開している。これはブラジル人留学生が履修予定科目に関する十分な情報を得て留学中の学修計画を立てることで、渡日前に母国所属大学の指導教員またはカリキュラム担当教員から適切な学修計画に関する指導や助言を得ることができ、

さらに帰国後のスムーズな単位振替の申請を行うことができる。前述のように日本語クラスを希望するブラジル人留学生は履修前にプレースメントテストを受験し、その後レベルおよび履修時限が決定されるため、日本語クラスの時間が渡日前に履修を予定していた専門科目や教養科目と重複してしまう可能性があるが、この問題を回避するため、プレースメントテストをWEB上で渡日前に受験できる制度を構築している。「国境なき科学」によるブラジル人留学生は約半数が日本語クラスを履修しているがそのレベルは初級から中級程度である。

また、筑波大学では特別聴講学生は特定の教育組織（学類）に所属しているものの、他学類で開講される科目の履修を最大限可能としている。これは筑波大学が目指す、地球規模課題解決に貢献できる人材育成には、より学際的な教育が必要であるが、学生が他組織で開講される科目を履修することで自分のキャリア形成に必要な学際的な知識を得られるようにしている。学部レベルの学生は将来の目的や進路に関する希望は持っても具体的な履修すべき科目についての決定に助言等が必要な場合があるため、所属組織の担当指導教員が必要に応じてアドバイスし、学生のキャリア形成に適したカリキュラム作成を支援している。

筑波大学の学生は学期初めに科目登録機関に科目履修システムを通して履修科目の入力を行うが、特別聴講学生についてはこれに加えて、授業の初回出席時に特別聴講学生としての履修を希望する旨を直接科目担当教員に伝え、科目履修の許可を得るように指導している。通常よりも手続きが増えてしまうが、学生と科目指導教員が直接面談することにより、特別聴講学生が担当科目の履修に十分な基礎知識、バックグラウンドを備えているか確認できる。

また、「国境なき科学」によるブラジル人留学生で科目履修の目的で特別聴講学生として入学した学生は、母国の所属大学で3~4年生であり、筑波大学での履修科目は専門科目が大半を占めるが、多くのブラジル人留学生が講義などの座学による科目履修だけではなく専門分野の実験や研究、さらにはインターンシップに参加したいという希望を持っている。そこで、いくつかの学類では「特別研究」といった研究主体の科目を開講しており、ブラジル人留学生が専門に関係した研究室での実験やセミナーに参加できるようになっている。

3. 短期留学生受け入れと大学国際化と今後の展望

大学改革、大学のグローバル化を支援する様々な大型プロジェクトにより多くの大学が外国人留学生受入・日本人学生海外派遣に係る学生数の数値目標を掲げている。プログラム全体を見通しながらプログラムの方向性、学内外との調整を考慮しつつ目標に向けて様々な事業を推進していくことが重要であるが、学生の受入・派遣に関しては、飛躍的な学生数の増大が求められるため、従来の受入・派遣体制の大きな改定が必要であり、多くの大学では支援体制がキャパシティ限界近くに達している。グローバル30事業などで多くの英語プログラムが開設され留学生受入に貢献しているものの、学位取

得を目的とした外国人留学生数の増加は数値目標に貢献できるほどには及ばず、より伸び幅の大きい短期間での受入・派遣の増加が期待されている。これに伴い、筑波大学でも短期留学生受入に係るチューター、指導教員などの諸制度、受入事務体制についてより多くの外国人留学生に対応できるよう修正すべく検討が進められている。受入・派遣は常に連携して支援体制を整える必要があり、大学間協定による学生交流では受入・派遣の数について常に厳密にバランスを確認することになっている。一般に、受入過多になりやすいアジアの協定校に対しては、日本人学生派遣をさらに推進することが必須であり、大学の世界展開力強化事業で実施されているキャンパスアジア、AIMS プログラムはこれに大きく貢献している。さらに、派遣過多になりやすい欧米の協定校に対しては受入学生を増加する戦略策定が必要で、受入短期留学生に対する日本語日本文化教育の強化や、協定校の休業中に実施するサマープログラム開設が重要となる。

本稿で取り上げている「国境なき科学」計画ではブラジル国費による学生海外派遣事業であり、留学生受入増加を目指している大学にとっては好機会であり、大学の独自性を生かして多くの外国人留学生を受け入れるべきである。筑波大学でも英語学士プログラムによる開設科目の提供や教育組織を超えた科目履修を可能とする学際教育を活かしてできる限り多くの外国人留学生を受け入れてきた。しかしながら、「国境なき科学」計画は日本だけではなく全世界へブラジル人学生を派遣しようとする試みであるが、残念ながら日本を選択するブラジル人留学生の割合はまだ低い²。筑波大学に入学したブラジル人留学生を集めて定期的にミーティングを行っているが、そこで日本を選択した理由を聞いてみると、「日本の先端技術や教育システムに興味がある。」と回答したブラジル人留学生が大半であった。また、約半数を占める日系人学生については日本語習得を目的とする学生も見られた。また、多くの学生、特にブラジルの地方大学出身の学生は日本の大学の情報が十分ではないとの意見があった。今後、さらなる受入増加を目指すためには日本の大学の特徴、強みをさらにブラジル人学生に広報する必要がある。また、これまで「国境なき科学」で日本へ留学したブラジル人留学生による帰国報告会を実施しブラジルの大学生と経験を共有したり、「国境なき科学」日本留学生の同窓会ネットワークを組織化するののもよい方法であると考えられる。さらに、ブラジルに限らず同種のプログラムがトルコ、サウジアラビアでも実施されており、「国境なき科学」計画での戦略的な短期留学生受入や広報戦略は他国での同種事業による派遣学生受入に役立つ点も多いと考えられ、「国境なき科学」計画での経験を生かした今後の短期留学生受入増加が期待される。

² 2014年度の応募者のうち日本を希望した者は全体の1.1%となる518名(アジア地域の応募者の約半数)。
(<http://www.cienciasemfronteiras.gov.br/web/csf/dados-chamadas-graduacao-sandui-che>)